

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.36 (1999.8.5号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1999.9.23. ; 7,[4]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

[阪神大震災復興支援]

被災地発、全国のみなさまへ

被災された方々を励ます手紙、全国の皆さんから1万通をこえました。又、多くの方々からの真心のカンパにより支援活動を続けています。重ねて感謝申し上げます。

被災地では、仮設の“期限切れ”の執行により、被災で全てをなくし病んだ高齢者が、次々移転、暫定（ザンテイ）入居の仮住まい、又それもならず仮設に取り残されて、散り散りバラバラ孤立化して行き、地域の横のつながりが希薄な所へ行かれた方々には、死と隣合わせの生活が続いています。

皆様からのカンパにより、当協会では週3回被災地を訪れ、地域コミュニティ作りのため地元の小中学校などにも呼びかけていますが、県外からも、写真の吉野中学（奈良県）や松原第三中学（大阪府）など、春休みに続きこの夏休みも、姉妹校作りや支援のため毎週のようにかけつけています。又文通支援の手紙も毎日のように協会に届き、多くのボランティアの手により直接届けられ、併せて“全国文通文集”に編んで各地各所に配布しています。

8月22日（日）には、よく訪ねる西代仮設（神戸市長田区）で“仮設生活4年半ーおつかれ様会”を、一つの節目として、同長寿友の会（長尾代表）や他のグループと共に最後のイベントをしますが、仮設が年内に解消される見込みはなく、又、移転が心の復興・癒（イヤ）しにつながらない現状では、支援活動はこれからが第2、第3の本番であるとも言え、県外に身を寄せ、戻る当てのない方々のことも考えるにつけ、一刻も早く横のつながりのある、隣り近所の顔が見える地域のコミュニティ作りが急がれます。

日常のケア活動と共に、被災地においても高齢の方、障害人（障害者というコトバに代えて）を支える為、これからも皆様からの支援・カンパを宜しくお願い致します。

※3面と中折に関連記事掲載

<鄭チョン>

[写真あり 春休みに仮設を訪ねた吉野中学（奈良県）のみなさん ※西代仮設（神戸市長田区）長寿友の会“あおぞら広場”にて 省略]

ボランティアネットワークの呼びかけ

一面で紹介した大阪府松原市の松原第3中学は3年前の夏休みから、長期休みごとに当協会と共に被災地に訪れ、その間のボランティア実績により連続して“全国青少年ボランティアコンクール”で全国賞などを受賞しまし

た。このことはコリアボランティア協会にとっても、とても励まされる思いで、これからも、ボランティア活動の広がりや連帯に努めて行きたいと思っています。

※上記、コンクールの第3回目は“第3回プルデンシャル・ボランティアアワード”という名称で現在、申し込み受付中です。詳しくはコリアボランティア協会イキ、までお問い合わせ下さい。

(松原3中の皆さんから届いたメッセージを折り込み付録に掲載しています。)

[写真あり 被災地の仮設住宅を訪ね、部屋の掃除を手伝う松原第三中学校3年生 省略]

ボランティアネットワーク便り

2年前より、阪神大震災で被災された方々に、励ましの手紙を送って下さっている、愛媛県の矢野マチヨさんから、全国の震災を支援して下さっているボランティアの皆様へのメッセージが届きました。矢野さんと文通されたい方など、お問い合わせはコリアボランティア協会・震災リーダーの鄭（チョン）までご連絡下さい。

昨日のこと覚えてますか 目覚めてから 休む迄のこと全部ふり返れますか 何を一番に浮かべますか それが一ヶ月前 一年前 三年前と月日が重なって行くと 濃まやかに頭に胸に浮かぶのは 誰かのことですか 嬉しかったこと それとも辛かったこと どんな時にもそこには温もり ありませんでしたか 今日迄生きたのは温もりに つながれていたからだと感じませんか どんなに時代が進んでも人肌の温もり同じ温もりを求める自分が存在しませんか ここに集う私達は未曾有の出来事を機に点った灯を消やすことなくつながって来ました それでも人間一つ感情では暮らせません 失なってはならないものを無くさないように 全国に居る私達から つながりをつなげ このつながりを神戸の皆さまに届けて参りませんか 誰か思う人が居る 何処かで自分を気に留めて呉れる人が居る 紙やペンを見ても ポストを見かけても 郵便さんのバイクの音を耳にしても それはささやかかもしれない この灯をあちらこちらとつなげて行くには 自分の思いを思うがままに綴れる手紙で やりとりしながらつなげて行きませんか 皆生きているのだから 共に生きて行かなければならないのだから 皆さまの温もりの声真実待っています 外から届く便りには力強いものがあります

矢野拝

このニュース制作中急きょおとなりの松原第二中学も合同で被災地を訪れることが決まりました。

1面と3面で紹介した、大阪府松原市の松原第三中学校はこの夏休みも被災されたお年寄りを訪ねます。その皆さんから全国のボランティアの皆さんにメッセージが届きました。皆様のお便りもお待ちしております。

- ・初めていくからどんなところかわからへんけど、手伝いができることがあれば、最後までがんばります。(村上はつみ)
- ・阪神大震災からは、もう5年もたっているけど人の心はまだ傷ついたままなので、私のできることをできる限り、やっていきたいと思いました。(横山友香)
- ・神戸にいて、少しずつ仲よくなっていくうちに、まだ震災の時の傷をひきずっている人が、たくさんいることがわかってきた。これからもボランティアをつづけて、いつも神戸の人からはげまされてるように、私らから神戸の人を元気づけられるようになりたい。(坂東ちさと)
- ・神戸へ行ったら自分の方が勇気づけられ、震災で苦しんだ方の想いを少しずつ分かって、少しでもよろこんでもらえること、とってもうれしくおもいます。これからも震災のことを忘れずに、明日に向かって一生けんめい生きていきたいです。この夏休みも、お互い勇気をもらったりもらわれたり、人のあったかさをかんじて、みんなが笑顔になれるよう、がんばります。(佐々木優子)

- 神戸に行って、神戸の人と仲よくなれてうれしいです。仲いい人がふえるにつれて、神戸に行くのも楽しみになりました。私はこれからも神戸に行きたいです。（松下亜友美）
- 私は神戸へ行って、仮設の人とふれあうなかで、うれしいことがいっぱいありました。初めは心をひらいてくれなかったけど、じょじょに仲よくなって、「三中から来ました」というと、よろこんでくれる人がいっぱいでした。これからも、神戸に行きたいです。（桜田杏映）
- 私にとって、神戸の存在はすごく大きいです。それは、神戸へ行く度に大きくなっていきます。夏休みになると、神戸へ行った事を思い出します。楽しかった事やうれしかった事…。神戸へ行ってたくさんの思い出ができました。今年もたくさんのいい思い出を作りたいです。（高野憲子）
- 神戸へ行く前までは、もう神戸は震災からたちなおっていると思っていました。でも、じっさい行ってみるとまだ仮せつ住たくがたくさんあってびっくりしました。自分がイメージしていた神戸とはなれた、現実の神戸が見れて反対に良かったのかもしれませんが。こうゆうきかいがなかったら「ボランティア」とゆう世界も、神戸とゆう場所にもいないと思います。神戸は私を大きく成長させてくれたと思います。（田中由紀）

震災支援のこれからの予定

“西代おつかれ様夕涼み会”

－仮設生活4年半とこれから－

松原三中と共に通い続けてきた西代仮設（神戸市長田区）で仮設の方やかわってきた方々と共にこれからのための一つの節目として最後のイベントをします。

8.22.(日) 午後4じ～9じ 西代仮設
長寿友の会 “あおぞら広場”
太鼓、バンド、手話落語
焼き肉、ポップコーン、飲み物

(c)1999コリアボランティア協会編集部(デジタル化：神戸大学附属図書館)